

# 創刊のことば

高橋 榮明

平成13年（2001年）4月に新潟医療福祉大学は開学いたしました。医療福祉保健分野の高度専門職を育成する4年制大学の設立は新潟地域において長い間要請され、期待されてきました。新潟医療福祉大学の教員、その主実習病院である新潟リハビリテーション病院のスタッフおよび関連諸機関および団体の医療職、医療福祉職、保健職、さらに希望者から構成される新潟医療福祉学会がこの秋に設立され、その学会の研究発表の場として新潟医療福祉学会誌および英文誌として、Niigata Journal of Health and Welfareが創刊されました。これは会員そして研究者による原著、症例報告、総説などの発表および情報交換の雑誌です。

21世紀となり、少子高齢化社会の日本は、さらに超高齢社会へと急速に変化しつつあります。そして、その変化に対応するために医療・福祉・保健の3分野は連携しそして融合した、境界のない大きな分野として考えなくてはなりません。それはそれぞれの分野の専門職は各自の専門領域のみにとどまることなく、他分野の専門職と情報を共有し積極的に協力して、はじめて国民の健康を高い水準に保つことが出来るからです。経済的にみても、この分野は現在では30兆円の国家予算を必要とし、今後、医療経済が非常に大きな課題となっています。

この分野の研究および実践の成果を発表し、情報を交換する学術会議として新潟医療福祉学会が設立されました。会員の成果を記録すると同時に広くこの分野の研究者および担当者の意見の発表の場として創刊されたこの会誌は新潟地域のみならず日本全国および世界からの論文を掲載し、意見あるいは研究の自由な発表の場となることを期待します。そして私たち、医療・福祉・保健分野の専門職は情報を共有し、相互に理解して日本の少子超高齢社会に生きる人びとの生活の質quality of lifeを最高に豊かに保つことに努めたいと思います。

皆様の積極的なご参加とご支援をこころからお願い申し上げます。

平成13年12月吉日

新潟医療福祉学会  
会頭

高橋 榮明